

つよいいつちゃん

赤坂 和摘

いつちゃんはつよい。わたしより二さい年下の妹なのに、まけずぎらいで何でもおなじようにできないと、なきながらおこる。どこへ行くときもついてきてまねをする。たしぎんやひきぎんも、わたしより先にこたえを言おうとする。あそびのルールをいっしょけんめいおしえても、さからったり、あやまろうとしない。そんなときお母さんに言うと、きまつてお母さんは、

「いつちゃんはトラどしだからね。」

と言う。すると、目をつりあげて口をふくらませるいつちゃんが、トラに見えてきて、ついわらってしまふ。かおが小さくてからだも細いいつちゃんは、つよいけれどこわくはない。どうぶつえんで見たことのある、トラの赤ちゃんみたいだ。

でも、いつちゃんはつよだからたよりになる。お母さんが出

かけて二人でるすばんをするとき、わたしがさみしくなると、「だいじようぶ、だいじようぶ。」とおねえさんほくこえをかけてくれる。

(いつちゃんがいっしょにいてよかった。ありがとう。)
と心の中で思う。

二人だけでおふろに入るときは、からだのあらいつこをする。いつちゃんは手にせっけんをつけて、わたしのせなかや足をするするやさしくなでる。くすぐったくて、まだつめがないあまえんぼうトラがあそんでいるみたいでかわいい。

わたしの名前を一日に何かいもよぶいつちゃん。うるさいな、めんどうだなと思うときもあるけれど、二人であそぶのはとても楽しくてえがおになる。

あしたもたくさんわたしの名前をよんでもらいたい。